

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後デイサービスtoiro仲町台		
○保護者評価実施期間	2024年 11月 1日		2025年 1月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	49	(回答者数) 30
○従業者評価実施期間	2024年 11月 1日		2025年 1月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 2月 13日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	支援プログラムの充実化。 利用者が楽しいと思い、自主的に参加できる主体性の高い活動内容を企画・立案していくこと。	活動内容がマンネリ化しないよう、子どもたちのニーズ聞き取りを月1回程度定期的に実施しています。 聞き取り内容を基に毎月のプログラムを考案しています。 また全ての児童指導員から毎月企画立案を行って、変化する子どもたちの日々や特性を踏まえて最も近いところで支援を行っている職員たちが自ら活動内容を検討し、実行しています。	子どもたちだけでなく、保護者へのイベント内容に関するアンケートや聞き取りを行い、ご家庭にとっても満足度の高い支援を提供できるよう保護者様とのコミュニケーションを取る機会を全職員で実行できるよう指導・教育を行います。
2	長く通所していただいている利用者が多く、ご兄弟で利用しているご家庭が多い。	通所中の利用者だけでなく、ご家庭でのご様子からご兄弟との関係性や兄弟同士でのやりとりについてごまめにお聴き取りを行っております。 ご家庭でのご様子と当事業所での様子の違いや、見えてくる姿の違いを捉え、ご家庭における兄弟間トラブルや関わり方についても支援させていただいております。	上のお子様成長していく過程でニーズが変化に伴って、下のお子様の支援にフェーズを移行していき、ご家族様に長く信頼いただけるよう運営していきます。
3			

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	人員不足によって、一人あたりの職員がやるべき業務が多すぎる。またそれに付随し日々の業務に追われ、職員同士のコミュニケーションを取る機会が減少している。	児童の特性に合った支援と、入職する職員の持つスキルやその人が考える支援にギャップがあります。	本社における採用活動を引き続き積極的に実施すると同時に、入社前の事業所見学で当事業所に来ていただき活動内容を紹介したり、支援中の実際を見てもらうことでミスマッチを防いでいきたいです。
2			
3			

公表	事業所における自己評価結果
----	---------------

事業所名	放課後デイサービスtoiro仲町台				公表日	2025年 3月 10日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	4	2	活動の内容や学年・体の大きさに合わせてスペースを変化させるなどして、区画を分けている。	高学年など事業所が対応しきれない児童がいる。活動や子どもたちの特性、子どもと言っても力は強く簡単に壊してしまうので、管理部門と連携して修繕と強化が必要。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	3	3		毎日逼迫している状況のため、安定的に支援できる職員の確保が必要。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5	1		そもそも2階にあって階段しかないため、本来のバリアフリー化を推進するにはリフターなどが必要な状況である。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	5	1			
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6				
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	3	3		毎月職員に対しての個人面談を実施しているため、その際に各人に実施しているが、それがPDCAサイクルの実施であるという認知度が低いため、周知を徹底していく。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5	1			
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5	1			
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	4	2		外部評価の機会が頻繁ではなく、その実施があったことを知らない職員もいるため、運営に関する規定などガイドラインの知識に関して周知徹底する。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6				
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6				
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	6				
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5	1			
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6				
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5	1			
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6				
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6				
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6				

供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	6			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	1	5		朝礼は基本的に毎日実施をしているが、長期休み中は朝も早く夜も遅くまでの勤務となるため、オンライン上での共有がメインとなっている。全員が顔を合わせて打ち合わせすることが難しい状況。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	1	5		児童や保護者のニーズにおいて短い時間での送迎対応もあり、所定の勤務時間内で終礼を実施することは不可能に近い。現状は、可能な範囲で実施している。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6			
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6			
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	5	1		
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	6			
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	5	1		
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	3	3		実際には他事業所等との連携については実施しているものの、それがこの項目に当てはまっているという認識が職員の中では希薄となっている。周知徹底し、職員と共通認識を持てるように取り組む。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	2	4		学校側がクローズドな雰囲気となっており、こちらから働きかけを行ってもケース会議の実現に至らないことが多い。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	2	4		実際には他事業所等との連携については実施しているものの、それがこの項目に当てはまっているという認識が職員の中では希薄となっている。周知徹底し、職員と共通認識を持てるように取り組む。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	4	2		
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	4	2	SVの巡回訪問がある	実際には実施しているものの、それがこの項目に当てはまっているという認識が職員の中では希薄となっている。周知徹底し、職員と共通認識を持てるように取り組む。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	1	5		
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。		6		管理者が代表して参加しており、その時に得た情報を職員に共有しているものの、それが自立支援協議会での内容という認識が希薄となっている。引き続き周知徹底していく。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6			
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	2	4		ペアレントトレーニングについては、更新面談時等を中心に児童発達支援管理責任者が実施している。児童指導員が単体で実施することがないため、共通認識を持てるよう周知徹底していく。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	5	1		
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6			
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	6			
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5			

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	1	5		人員不足により、日々の支援時間の確保と並行して保護者会の開催はかなり難しい課題となっている。当事業所の開所日程は土日祝日を含むため、保護者会開催にあたっては同じ日時で相当数の職員配置とさらに余剰して保護者会のための人員が必要。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6			
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	6			
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6			
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6			
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		6		会社が協賛するイベントにご利用者様をご招待する機会があるものの、それがこの項目に当てはまるという認識が職員間で希薄となっている。引き続き、周知徹底していく。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	5	1		
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	5	1		
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	6			
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	5	1		
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	5	1		
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	5	1		
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	4	2		
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6			
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	4	2			